

回 答 書

番号 1 河村 孝 議員

質問事項 2 東京五輪・パラリンピックへのホストタウン等での取組について

(1) 東京オリンピック・パラリンピック大会までのセルビアホストタウンの取組、及び大会後の取組について

「東京オリンピック・パラリンピック大会までのセルビアホストタウンの取組、及び大会後の取組について」です。

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」は、本市がこれまで取り組んできたホストタウン事業の本番であり、セルビア女子バレーボールチームの金メダル獲得を最優先とし、事前合宿をはじめとする取組に万全の態勢で臨むこととしております。

まず、大会までのホストタウン事業の取組についてです。

大会に関連する行事をはじめ、様々な機会を通じて大会機運を盛り上げてまいります。

主なものとしたしましては、4月15日にはオリンピック100日前イベントを、5月14日には、幻のモスクワオリンピック代表の河村桂子さんをはじめとするランナーによる聖火リレーを、6月20日には、サントリーサンバースの荻野正二監督によるバレーボール教室を開催し、そして、7月のセルビア女子バレーボールチームの大会直前の事前合宿、さらには、8月の防府天満宮でのパラリンピック聖火となる火の採火式等があります。

特に7月の事前合宿では、ホストタウン事業の集大成として、セルビア女子バレーボールチームが最高の状態で大会に臨むことができるよう、安全面や衛生面をはじめ、チームの最終調整や選手の体調管理に専念できる環境を整えるとともに、最大限のサ

ポートをしてまいります。

そして、オリンピック本番では、市内各所でのテレビ放映やパブリックビューイングの開催により、市を挙げて全力で応援してまいります。

次に、大会後の取組についてです。

これまでのホストタウン事業の取組の成果を将来に継承することは、大変重要です。そのためにも、セルビア女子バレーボールチームの金メダル獲得という最高の形を迎えられるよう、大会までのホストタウン事業に万全を尽くし、市民の皆様にはホストタウンになっていて良かったと思っただけのよう取り組んでまいります。その上で、市民の皆様の盛り上がりを踏まえ、市民の皆様の意見を伺い、将来に継承されるような取組を検討することとしています。

まずは、オリンピック本番に向け、ホストタウン事業に全力で取り組みます。

(担当部署：総合政策部政策推進課)

(2) パラリンピックの選手の姿を通しての「心のバリアフリー」について

パラリンピックの選手の姿を通しての「心のバリアフリー」についてです。

東京 2020 パラリンピックでは、防府読売マラソン（視覚障害女子）に参加いただいている道下美里選手の出場が内定されています。また、車いすバスケットボール女子では防府市出身の財満いずみ選手の出場が有力視されており、お二人のご活躍を期待しているところです。

「心のバリアフリー」とは、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションを

とり支えあうことであり、パラリンピックをはじめとする、障害者スポーツ競技大会では、選手と選手をサポートする方々との相互理解により競技が行われています。

本市の全国的に有名な「防府読売マラソン大会」では、第47回大会（平成28年）から、視覚障がい女子マラソン選手権大会を兼ねて開催しています。

この大会に参加していただいている、道下選手には、平成28年より4年間、市内の中学校を訪問していただき、障害を乗り越え、チーム道下の仲間と共に走り続けることの素晴らしさについてお話をいただいています。道下選手のお話から、子どもたちは、夢や目標に向かって前向きに努力したり、仲間と互いに支えあったりすることができる人間になりたいと感じていました。

防府市役所においては、陸上競技や、車いすラグビー等の障害者スポーツで活躍している職員もおり、他の職員と一緒に仕事に取り組んでいます。スポーツや仕事を通して、職場における相互の理解が深まっています。

今年の夏には、東京2020オリンピック・パラリンピックをセルビアホストタウンと一体となって盛り上げていく中で、道下選手や、財満選手のご活躍を市民の皆様と応援するためのパブリックビューイングや、パラリンピック聖火を生み出すための採火イベントを実施する予定としています。このような行事により、市民の皆様と一緒に盛り上げ、感動を共有することで「心のバリアフリー」が一層広がっていくものと確信しています。

（担当部署：健康福祉部障害福祉課、教育部学校教育課）